



船橋を拠点に活動する画家 荒井恵子さん

「自分自身と向き合う空間に」

荒井さんは「墨がゆつくりと染みていくリズムが自分にピッタリ合う」とおよそ20年にわたり、墨と和紙を用いた画法で、市内を拠点に国内外で活躍を続けて

墨と和紙で独自の世界を表現。作品を見つめる荒井さん

船橋市在住の画家、荒井恵子さんが西船6の宝成寺のふすま絵を描いた。昨日、開眼供養

が行われ一般公開された。27日まで、荒井さんの他の作品と合わせ同寺内で展示会が開かれ

お寺のふすまに抽象画

描いたふすま絵は12枚。福井から取り寄せた手すきの和紙に、「命のつながり」をテーマにしたふすまの両面に「過去、現在、未来につながる道」「闇の先にある光」の2つの空間を表現した。

「命のつながりを感じ、自分自身と向き合う場所にしてもらえた」と荒井さんは話して

27日まで、13時～17時。会場は宝成寺客殿(西船6・2・30。京成西船駅から徒歩5分)。

FUNAYOMI

船橋 よみうり

No.948
4/20 Sat

(株)船橋よみうり新聞社

【発行日】毎週土曜日(第5土曜除く)

【発行エリア】船橋市・習志野市・鎌ヶ谷市

【HP】<http://www.funayomi.com>

TEL047-424-5534 FAX047-425-0373

〒273-0002 船橋市東船橋1-29-15